

# いっぽだより

はじめのいっぽ  
2021年5月31日

お久しぶりです。

この度は、道内にも新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が発令され、はじめのいっぽとして対応策を検討し、5月17日から5月31日まで密を避けるため、各ご家庭にも協力依頼をし最少人数（就労されているご家庭のお子様のみ）での受け入れとしました。

皆様には大変ご迷惑をおかけしましたが、6月1日より（火）より、通常通り通所できるよう各場所、遊具の消毒の他、マスクの着用、手洗いの徹底など細心の注意をはらい受け入れ態勢を整えておりますのでご安心下さい・・・と、言いながらも目に見えないだけに常に不安と背中合わせですが、平日頃の食生活のバランス・体力作りなどにより免疫力の高い子どもたちを信じ、今後も「いっぽに行けて良かった!!」と思えるよう全身全霊にてサポートしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



※さて、嬉しい情報もあるんですよ!!

幕別町途別地区のいっぽでは、**果樹園誕生!!** 他、**夢の宝庫!!**

○ ハスカップ 50本・サクランボ 20本・梅 10本・ブドウ 20本、等々、実のなる木を植え近い将来食べ放題の果物はもちろんのこと、ジュースやジャム作りなど子どもたちと一緒に収穫し加工食品を造り、いっぽ祭りやバザーなどで販売し働いた喜びを満喫したい!!

また、同じ途別の敷地には大型トレーラーがあり、その上はフリースペース・・・

活用法を模索中ですが周囲の景色の良さより柵やベンチを作り見晴らし台とし、贅沢な景観を見ながらいっぽ食堂やピザ屋さんなど地域開放で開かれた“はじめのいっぽ”を実現したい!!と、夢はかぎりなく続きます。

乞うご期待!!

文 石橋 わか子



## 職員からのおたより

### 山菜採り名人のコラム

文 山本 寿果

私の好きな季節! フキノトウから始まりギョウジャニンニク、たらんぼ、途別の畑にはニラがどっさり~全職員で食べても配ってもまだまだある・・・そこで偶然TV番組で見かけた「ニラ醤油を作ろう!」部屋中がニラの匂いでおおわれることになりましたが、ギョウザに入れたり、納豆・豆腐にもものせても、卵に和えて卵かけごはんにしても最高でした。

またある日、子どもたちとフキを採りに行きました。虫食いはどんな風になっているものなのか(フキの穴の中が真っ黒)、2, 3本まとまっているフキのどれが美味しいフキなのか・・・などなど伝えた後、それぞれに収穫開始! 「カタツムリ見つけた!」「じゅめじゅめしたところにいるんだね!」などなど・・・大人の私はフキの収穫に一所懸命でしたが、子ども達は大発見に夢中でした。昔は私も子どもだったので、同じだったんでしょが、今では、美味しいものに夢中な大人になってしまっておりました・・・



- ニラ醤油の作り方
- ① 広口瓶に熱湯をかけて消毒する
  - ② ニラをきれいに洗って7ミリぐらいのみじん切りにする。
  - ③ 広口瓶にニラを入れて醤油を入れる(醤油の量はニラの1/3位で大丈夫)
- ※広口ビンがなければタッパーでもOK

## いっば広場の変化

文 山本 渉

新しい年度が始まり、外もポカポカ暖かくなってくると気分もウキウキです。今期は何を作ろうか？何をしようかと、やりたいことが次々に現れます。そんな中、4月から始めた結のウッドデッキが完成！ いっばだより3ページにも載せていますが、いろんな使い方を子どもたちと考え、今は“土足禁止！” 実はこの土足禁止こそ子どもたちのやすらぎの場となっているのです。外でもない・部屋の中でもない空間は、誰でも集まるととても落ち着く空間のようです。その他に、羊の放し飼いが出来るよう小さな牧場エリアが出来上がりました。子どもたちはスルスルとくぐる事が出来る柵の幅も、丸々太ったミーとメ〜は難しそうです。そんな楽しい空間を子どもたちと今年もたくさん作り上げていきたいと思えます。ご家族の皆様、お子さんと是非、見学に来てください。



## 散策中のひとコマ（虫探し）

文 西岡 友美

散策中、必ずといっていいほど足を止める子どもたち・・・その視線の先にはアリや小さな虫たちが顔をのぞかせています。私たち大人だけでは素通りしてしまうような場所も子どもの小さな目には宝物を発見したかのような眼差しで、何かを見つけるたびに頭を寄せ合って見入っている姿は何度見ても可愛らしいです。「なんていう虫かな？」と興味津々に捕まえては袋の中に入れて観察・・・持ち帰るのかなと思いきや帰る直前にそっと草の中に返して上げる優しさ!! 小さなころから生き物に対する優しさが育まれているなあと感じられる瞬間を大切にしていきたいと思う日々です。いっばだより後半に、子どもたちの可愛い姿を見ることが出来ます。お楽しみに・・・



## 身近な自然に感謝

文 石橋 卓弥

5月は上旬がGWで、後半は緊急事態宣言が出て家庭協力をしてもらうお子さんも多く、ちょっとさみしい1か月になりました。連日のように帯広・十勝地区でコロナ感染の報道があり、コロナが身近に感じるようになり、「明日は我が身」と不安な中での生活になってしまいました。

先日の新聞で、コロナウイルスは人が森林を切り開き環境破壊が進むことで、コウモリ等の野生生物との接触がみられるようになり、感染するようになってきたとの記事が出ていました。

一方で昔から日本人は自然とうまく調和してきた民族と言われています。里山に代表されるように自分のいのちの糧である自然の恵みを頂きながら、森林や田畑を大切に維持してきました。

はじめのいっばでも自然を征服しようという考えではなく、昔の日本人の生き方を見習い、動植物や他者と共生することを大事にして、活動していければと思います。

最近のはじめのいっば途別に行き、いろいろな山菜を道端からおすそ分けしてもらっていますが、みーちゃん、めいちゃんも乾燥した牧草よりも新鮮なたんぽぽなどの草を食べて幸せに生活しています。6月から子どもたちには過密にならないように、できるだけ自然にふれてゆったりと過ごしていただければと思います。



## 草取りといっば理念

文 石橋 和久

家の周りの草取りをして思う、タンポポやスギナぐらいしか知らない自分がある。草に交じってあまり見たことがない「これは草ではない何かの木だ。」と思う様などこからか種が飛んできて小さな命が芽生え、そこに根を張り大きくなるはずだった苗木は私によって無造作に抜かれてしまっていた。後になって思い返している・・・抜いた苗を別の場所に植えてやれる余裕がなかったのか残念でならない。

これは、はじめのいっばにも通ずると思う。子どもたちは日々成長してゆく。大人は正面から向き合えないと「明日でいい」とか「後でいい」とかでは、取り返しがつかなくなる。ゆっくり、じっくり、丁寧に行きたいものだ。





## 日々の活動



五月の行事は、8日の羊の毛刈りからスタートです。去年に引き続きハ千代の増田さんが駆けつけてくれました。羊のことについて、毛刈りをしながら説明してくれるプロの技に感嘆するばかり・・・今年の毛の量は、ちょっと太り気味の彼女たちからイッパイ刈り取れそうです。



4月から子どもたちと工事を始めていた、結のウッドデッキが完成しました。今まで室内に閉じこもり気味の子もデッキの上で“すごろく”をしたり、お月さんの天体観察したりと思い思いに程よい空間で子どもたちがのんびりと過ごしています。

また、5月12日で結が一周年！あっという間の一年を青空のもとウッドデッキを使い、ささやかながら「お誕生日おめでとう！カンパイ！」とお祝いしました。

5月後半は北海道の緊急事態を受け最少人数の受入れ運営となりましたが、ふだん人数では出来ない活動を子どもたちと工夫をしながら過ごしました。6月からは、普段通りのお友達が集まり活動できることを楽しみにしています。



## ひつじ組さん編（午前未就学児）

季節を感じ、散策に制作にと活発に動き回る ひつじ組さん！互いに刺激し合い、いろいろな発見を分かち合っているようです。今年の子どもたちは、虫かごを持っている姿がよく写っていて、虫かごの中には思い思いの発見が詰まっているようです。季節ごとの変化を五感で感じ表現することが今の成長時間にとっても大切なことと思いますので、泥んこになったり服や靴を濡らしたり洗濯など増えると思いますが暖かく見守り下さい。

